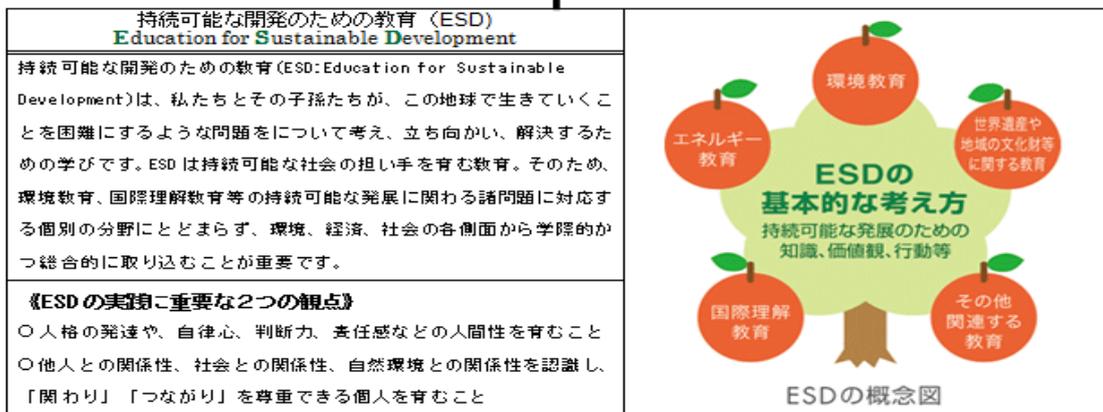
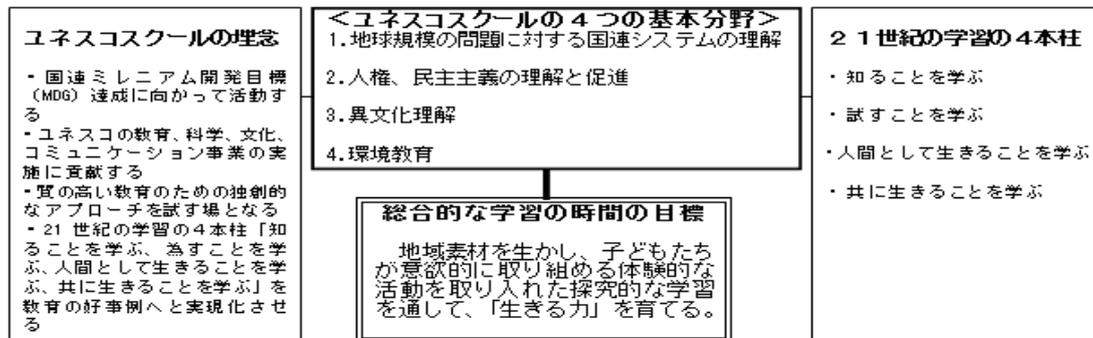


1 活動の趣旨

ユネスコスクールの取組の柱の一つが総合的な学習の時間における取組である。本校の総合的な学習では、地域素材を生かした体験的な活動を取り入れ、教科の枠を超えた横断的・総合的な活動となるよう充実を図る。このような学習活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力などをはぐくむとともに、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得にも資するなど教科と一体となって子どもたちの力を伸ばすものである。

本校の総合的な学習の時間の計画に当たっては上記の基本的な考え方に加えてユネスコスクール実践校としてESD「持続可能な開発のための教育」の視点を盛り込んでいる。「食・健康」「くらし・エネルギー」「環境」「国際理解」などの各学年のテーマにESDの視点を組み込むことで安心して暮らせる未来の実現のために課題を発見する力や解決のための方法を考える力、協同して課題の解決に当たる力や態度を育みたいと考えている。

2 全体計画



<総合的な学習の各学年の内容>

※各学年の総合的な学習の内容にESDの視点を盛り込み、「社会や未来のためにできること」を考え、実践していく。

学 年	3年「食・健康」	4年「地域」	5年「環境」	6年「国際理解」
主 要 学 習 事 項	◎いのちの大切さや安全で健康な生き方について考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか	◎地域についてその理解を深め、地域のよさを考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか	◎環境問題についてその理解を深め、自分のできることを考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか	◎世界の諸問題や人々について考え、自分の将来や生き方について考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか
学 習 内 容	○食に関わる内容、施設 ○自身の健康、生命の神秘、不思議、素晴らしさ等	○地域の施設や自然 ○地域の伝統や文化を守る人々 等	○身近な自然環境とそこに起きている諸問題 ○環境を守るための活動に取り組んでいる人々 等	○海外の国や地域で起きている諸問題や解決のための方策 ○将来への展望 等

<特別活動における取組他>

【特別活動のねらい】学校生活の充実と向上を図り、自発的自治的な活動を通して自主性・社会性を育成する。

- 書記局の呼びかけによるクリーンプロジェクトによって身近な環境に目を向け、環境を守る態度を育成する。
- ボランティア委員会を中心に行っている書き損じハガキ集の活動の経過、結果をいつでも目につくようにユネスコ掲示板を活用していく。
- ユネスコスクール、ESDについて、職員の間で共通理解を深めるための研修を行う。

<全校一斉の取組>

ユネスコスクール集会(年2回)

- ◎総合的な学習の計画や活動の経過を発表する集会。
- ◎1年間の活動のまとめやユネスコスクールの一員として「社会や未来のためにできること」を発表する集会。

- ・ユネスコスクールの活動を保護者や地域の方々にも広く理解してもらうため、集会の参観を呼びかける。
- ・ユネスコスクール集会以外にも学年・ブロック単位で活動、実践発表会を積極的に設ける。

3 活動事例

【ユネスコ集会での各学年でのテーマ】

3年生：大切な命・健康と食

4年生：アイヌ文化について

5年生：石狩の環境問題

6年生：世界に目を向けて

ボランティア委員会：ボランティア活動の取り組み



《3年生》

石狩市の福祉課の方を招き、ゲストティーチャーとして授業を実施。車椅子を体験し、感想を発表した。その後、アイマスクを体験し、目の見えない人の気持ちを実感した。

《5年生》

環境に対して意識をもつため、当別の道民の森へ宿泊学習に行った。自然に触れ合いながら、環境について考え、資料を作り発表した。



《6年生》

日本から海外へ広げ、「世界の問題と子どもたち」について調べ学習を行った。地雷問題や子ども兵、貧困や学校などさまざまな問題を取り上げ、新聞にまとめ、グループで発表した。



《環境委員会》



ペットボトルキャップを緑苑台イオンさんへ渡す。集めたペットボトルキャップは、ワクチンに変わる。

《4年生》



社会見学で北海道博物館を訪れアイヌ文化についての調べ学習を行い、理解を深めた。

4 成果と課題

本校では総合的な学習の時間の取組に加えて、環境委員会がユネスコ活動に取り組んでいる。書きそんじハガキ回収や全校集会でのユネスコ活動の説明などで全校児童に「世界の問題」「ユネスコの活動で協力していることがどのように生かされているのか」を啓発している。

こうした取組の継続によって、ユネスコ活動が学校の活動の中に自然に溶け込み、低学年にも意義が伝わりつつある。